

## 知床岬における仕切り柵の設置について

### ○仕切り柵のルートと構造

希少猛禽類への影響を考慮し、営巣木から 500m の距離を確保。捕獲はフェンスの文吉湾南西末端部 (A)、灯台末端部 (C) 赤岩側末端部 (D)、中央草原 (E) で実施することを想定している (図 1、知床岬仕切り柵、植生調査区位置図参照)。A・E 地点では必要に応じて一部改造すれば、生体捕獲と標識装着も可能。

金網フェンスと鋼柱による柵を予定している。野生動物 (キツネなど) の移動に配慮したメッシュサイズを設定するとともにオーバーパスの設置も検討している (図 2)。人間の通行のためのマンパス (図 3)、および、捕獲時に撃ち下ろす射角を確保して安全性を高め、かつ、少人数での餌付けによる狙撃も可能とするハイシートも設置予定 (図 4)。

### ○仕切り柵の施工スケジュール

今年度は測量等に予想外に時間がかかったために、着工はできず。希少猛禽類への影響を考慮し、来年度の夏以降に工事を開始し、来年度中の完成を予定。

### ○仕切り柵設置後の知床岬地区での植生モニタリング

#### 1. 植生保護柵内外における調査 (海岸草原、環境省)

2003 年から 2004 年にかけて 3 箇所に植生保護柵を設置。植生保護柵内における調査において植生の回復状況を調査するとともに、亜高山高茎草本群落、ガンコウラン群落に設置した植生保護柵外における調査を実施し、密度操作実験の影響評価を行う。調査頻度は毎年を予定。

#### 2. ササ、イネ科調査 (海岸草原、環境省)

イネ科小型草本について金属製ゲージ等の設置および刈り取りにより、現存量と採食量を調査するとともに、クマイザサについてラインセンサスにより被度と高さを調査し、密度操作実験の影響評価を行う。調査頻度は毎年を予定。

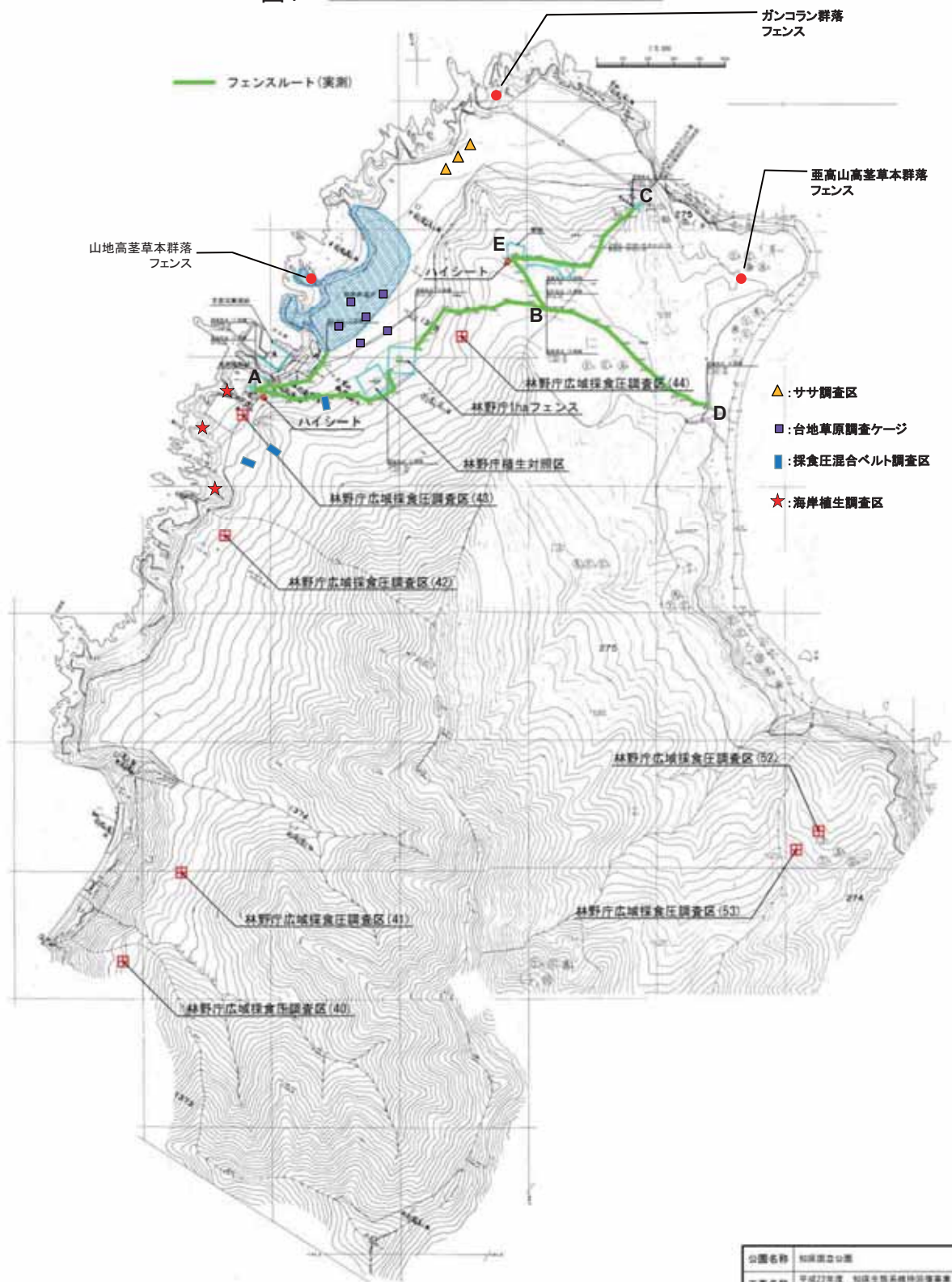
#### 3. 1 ha フェンス内外における調査 (台地林内、林野庁)

植生保護柵の内外において、毎木調査と植生調査を実施し、森林部分での密度操作実験の影響評価を行う。1 ha フェンスおよび対照区は仕切り柵の内側 (岬側)。調査頻度は 2 年に 1 回を予定。

#### 4. 広域採食圧調査 (知床岬林内、林野庁)

既存の 7 つの広域採食圧調査区において、毎木調査と小方形区における植生調査を実施する。調査区は全て仕切り柵の外側 (半島基部側) であるため、柵の外側における植生の変化をモニタリングする。調査頻度は当面は 5 年に 1 回とするが、柵設置後の植生の変化の状況によって見直しを検討する。

図1 知床岬仕切柵, 植生調査区位置図 S=1:5000



公園名称	知床国立公園		
工事名称	平成23年度 知床生態系維持管理事業 知床岬地区仕切柵設置設計業務		
図面名称	知床岬仕切柵 植生調査区 位置図	縮尺	1/5,000
年月日	平成23年 12月	図面番号	/
会社名	株式会社 アサヒ建設コンサルタント	期	計
事務所名	札幌支 札幌自然環境事務所	期	計

# 知床岬仕切り柵構造図 1

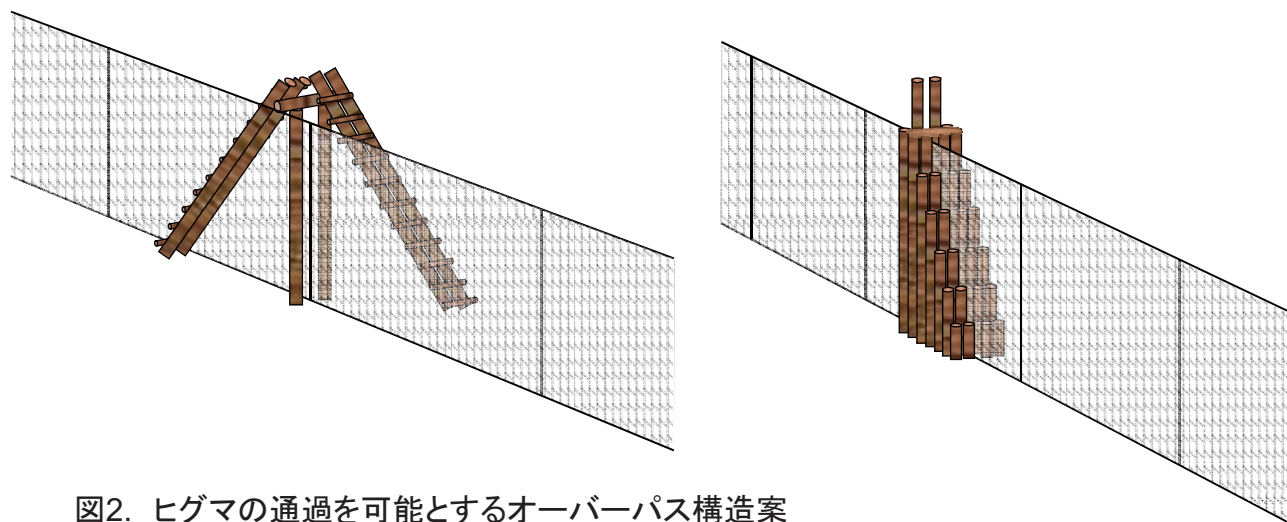


図2. ヒグマの通過を可能とするオーバーパス構造案

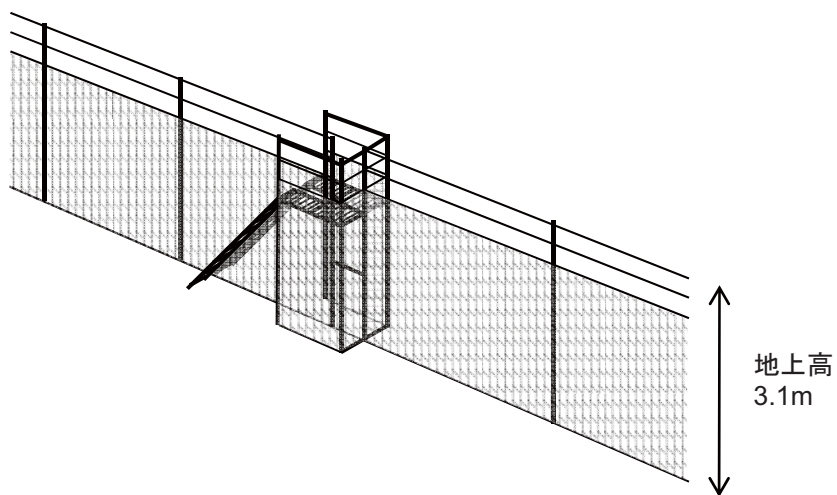


図3. 人間の通行用のマンパス構造案

閉め忘れを防ぐために、開閉構造ではなく、かつ、シカは通行できない構造とする。

## 知床岬仕切り柵構造図 2

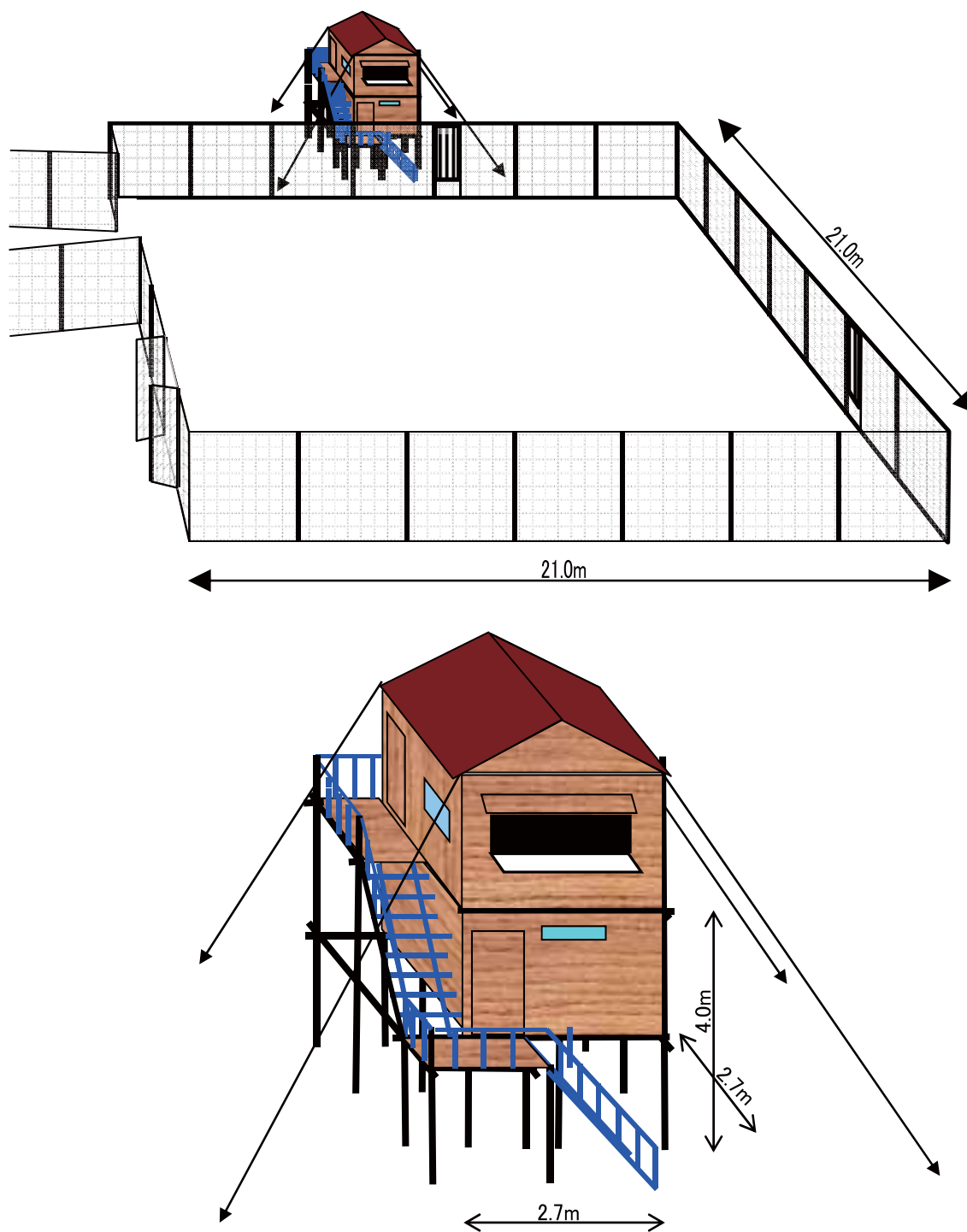


図4. 最終追い込み地点の柵構造とハイシート案

A・E地点には、シカを最終的に追い込む囲いを設置。その横に高床式のハイシートを設置し、撃ち下ろす射角を確保して安全を確保する。また、シカの数低下していき、巻狩りでの捕獲が難しくなってきた際には、餌付けして狙撃するための拠点としても機能させる。

仕切柵ルート図

フェンスルート(実測)

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

